祈りの力

祈りは本当に何かを変えることができるのでしょうか？

Hans-Jörg Ronsdorf による説教

神ご自身が祈りに意味を与え、ご自分の子どもたちの祈りにご自身を結びつけられました。それによって、物事の成り行きが変わりうるのです。例：エゼキエル書22章29〜31節、詩篇106篇23節、出エジプト記32章10〜14節。エゼキエル書では、とりなす者がいませんでした。祈りが欠けると、悪い結果を招きます。祈りがあれば、さばきは押しとどめられたはずでした。モーセが祈ると、さばきは退けられました。

イエスと祈り：地上では神のみこころが行われていません。少なくとも、どこででも行われているわけではありません。だからこそ私たちは、みこころが天で行われるように地でも行われるように祈るべきなのです。祈りは、神のみこころが行われるのを助けます——私たちがそのために祈らない場合よりも多く。

ジョン・ウェスレー（John Wesley）は、少し誇張してこう言いました。「神は、私たちの祈りに答える以外には何もなさらない。」神は、ご自分の民の祈りに並外れた仕方で答えてくださいます。たとえば紅海でのモーセや、ヒゼキヤの寿命が延ばされたことです。正しい人の祈りは、働くと大きな力があります！（ヤコブ5:16）

神と人とのコミュニケーションの必要性：神は私たちと人格的な関係を持ちたいと願っておられます。それはコミュニケーションを通してしか実現しません——人と人との間でも、コミュニケーションなしには交わりがないのと同じです。神は世界を、そこで起こる多くのことが、私たちと神とのコミュニケーションに関わるように造られました。

祈りと、道徳的に責任ある決定権：神は世界を、神が私たちに影響を与えるだけでなく、私たちも神に影響を与えるように造られました。神はご自分のみこころが地上で行われることを望んでおられます。神は代理人を通して働かれます。神のかたちに造られた人間が地を治めるのです。**祈りは、霊的で、目に見えない、暫定的な統治の形です——私たちは、ここ地上で起こるべきことのために祈ります。祈りにおいて神と心を一つにするとき、それは神とともに治めることなのです。**

祈りの緊急性：神は祈りを真剣に考えておられます。神は、選択の自由や世界の安定性にご自身を結びつけておられるのと同じように、祈りにもご自身を結びつけておられます。実際、多くのことが、神の民が祈るか祈らないかにかかっています——神の民が祈るときにだけ起こることもあるのです。神ご自身が、祈りを決定的な変数とされました。それが、ある特定の状況で神が何をなさることができ、何をなさることができないかを決めるのです。

緊急性と限界：ここから、まるですべてが私たちの祈りにかかっているかのような、誤った結論を引き出すこともありえます。自分の責任や務めをどう用いるかには、バランスが必要です。日常の生活でも同じです。私たちは百万もの事柄のために祈ることができますが、時間には限りがあります。ですから、祈りを何に集中させるべきかについて祈ることさえ、良いことなのです。

すべてが私たちの祈りにかかっているという考えと、何ひとつかかっていないという考えとの間で、私たちにはバランスが必要です。

なぜ聞かれない祈りがあるのでしょうか？　私たちが祈ると、神は、宇宙的な戦いのもとで苦しんでいる、想像を絶するほど複雑な被造世界という文脈の中で答えてくださいます。**祈りはそこで違いを生み出します。**けれども、祈りだけが世界を決めているのではありません。取り消すことのできない自由意志を持つ多くの御使いや人間、そして安定した世界を保証する自然法則もそこに含まれます。神はそれを尊重しておられます。神がそう望まれたのです。しかし私たちには、私たちの祈りという変数がこれら他の変数とどう関わっているのか、つまり、神が私たちの祈りに応じてそれらをどう扱われるのか、まったくわかりません。私たちの祈りは答えられます。しかし多くの場合、私たちが思い描くような仕方ではありません。

祈りの効果に影響を与える変数――神ご自身が与えておられる規則：

神のみこころ：これは唯一の変数ではありませんが、最も根本的な変数です。神のみこころにしたがって願うことが、祈りが聞かれるための前提です（ヨハネ第一5:14、マタイ26:39、コリント第二12:7）。しかし、神のみこころとは、いつも神の理想的なみこころや完全なご計画を意味するわけではありません。肉体のとげは理想的なものではありませんでしたが、パウロにとっては、それがあるほうが良かったのです。それは彼を高ぶりから守りました！　私たちの祈りのいくつかが聞かれないのは、それが聞かれると私たちが高ぶってしまうからではないでしょうか？　祈りが聞かれない理由は、必ずしも神のみこころにあるとは限りません（私が祈っている人が回心しないなら、神はその人の回心を望んでおられるのですが、その人の「いいえ」を尊重しておられるのです）。

祈ってもらう人の信仰：ナザレの人々の不信仰のために、イエスはそこで少ししか奇跡を行うことができませんでした（マルコ6:5〜6）。イエスは、いやされた人たちに何度か「あなたの信仰があなたを救ったのです」と言われました（マタイ9:22、マルコ10:52、ルカ17:19）。けれども、これを逆にして一般化することはできません。いやしが起こらなかったとしても、それは必ずしも信仰が足りなかったからではありません。祈りが聞かれなかったことには、私たちには探り知ることのできない多くの理由がありえます。それでも、祈ってもらう人の信仰は一つの変数なのです！

祈る人の信仰：ルカの福音書5章20節――屋根からつり降ろされた中風の人。マタイの福音書8章13節――百人隊長。しかしマルコの福音書9章14〜29節もあります――弟子たちは悪霊を追い出すことができません。ヤコブの手紙1章6〜7節も参照してください。けれども、祈りが聞かれないことは、通常、信仰がなかったことを意味するわけではありません。信仰が祈りをより効果的にするというのは原則ですが、祈りがいつも聞かれるという規則ではありません。

粘り強い祈り：目に見える生活の中にも、忍耐と時間を必要とする務めがあります。祈りの生活でも同じです（ルカ11:5〜8、18:1）。祈りは魔術ではなく、霊的な働きです。私たちは、何かをどうしても必要としているかのように祈るべきです。絶えず祈るのです（テサロニケ第一5:17）。けれども、祈りが聞かれないからといって、必ずしも私たちの祈りが足りなかったということで

はありません。また、長く祈れば必ず聞かれるという保証もありません。それは原則であって、成就の保証ではありません――非常に多くの要因が関わっているからです。

あることのために祈る人の数：自然の領域でも、一人ではやり遂げられない仕事や、一人では時間がかかりすぎる仕事があります。霊的な領域でも同じです。ですから私たちは、教会に、あることのために祈るよう呼びかけるのです。二人か三人が心を一つにし（マタイ18:19）、集まった人々が祈りました（使徒4:24）。大勢で祈ることは、一人で祈るときとは違う次元を祈りに与えます。規則ではなく、原則です。

人間の自由意志：地獄は、神が人間の意志を真剣に受け止めておられることの厳粛な証拠です。神は人間を、自分で決断し、その意志を神が尊重するように造られました。私たちがだれかの回心のために祈るとき、神はその意志を力ずくで押しのけたりはなさいません。もしそうなさるなら、すべての人が救われるでしょう。しかし私たちの祈りは、その人々に対する御霊の働きを強めます。神の力は強制するものではなく、説得するものです。そして、神の力とは愛なのです！

御使いの自由意志：御使いは、祈りが聞かれることに影響を与えることがあります。ダニエルは、別の者に阻まれていた御使いが来るまで待たなければなりませんでした。それは神のタイミングではなく、目に見えない世界での抵抗と霊的な戦いでした（ダニエル10:12～13）。パウロはテサロニケの人々を訪ねるために祈っていたのに、サタンがそれを妨げました（テサロニケ第一2:18、3:10）。諸力は、祈りが聞かれるか妨げられるかに影響を及ぼします。それらが祈りの聞かれない理由であることもあり、その場合、私たちはそれを神のせいにすべきではありません。

霊的存在の数と力：目に見える世界と同じように、霊的な戦いもこうした特徴と関わりがあります。御使いたちが互いに助けに来るのは、それが違いを生むからです（ダニエル10:13）。エリシャの若い者は、助けに来た大勢の御使いを見ました（列王第二6:16～17）。ある人には悪霊が一つではなく、たくさんついていて、イエスはそれらを追い出されました（マルコ5:1～9）。弟子たちは、強い悪霊を追い出すことができませんでした（マルコ9:14～29）。七つの霊が戻って来ます（ルカ11:24～26）。私たちは恐れる必要はありません。私たちのうちにおられる方は、世の霊よりも強いからです（ヨハネ第一4:4）。

罪：自覚している罪、敵意、赦そうとしない心があるところでは、その罪に向き合わなければなりません。罪を捨て、告白しなければなりません。そうすれば、私たちは正しい者として、再び力ある祈りをすることができるのです。

この戦場のただ中で、千もの問いと聞かれない祈りを抱えながら、私たちはキリスト者としてどう生きることができるのでしょうか？

私たちの目をイエスに向けること――経験から神のイメージを形づくらないこと！

神は私たちとともに、私たちのそばにおられます！　いつも！

神は、あらゆる状況、あらゆる苦しみから、私たちのために良いものを生み出すことがおできになります（たとえ神がその悪を引き起こされたのではないとしても）。

だれにも答えられない「なぜ？」という問いを立てるのではなく、苦しみに、悪に立ち向かい、それを受け入れないこと。イエスがそうなさったように！

どうすれば私たちは生きて、正しい道と正しい決断を見いだすことができるのでしょうか？　私たちのうちに住んでおられる御霊によって生き、導かれることによってです！

新しい創造の希望の中に生きること！　すべての苦しみは終わります！　もうすぐ！

この説教の多くの考えは、グレゴリー・A・ボイド（Gregory A. Boyd）に負っています。